

2 目標達成計画

事業所名 愛寿乃里

作成日: 令和 3年 10月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう工夫しているが、充分とは言えない。	すべての利用者の家族に対して、愛寿乃里便りや写真を送り、現在の本人の様子を伝えていく。	家族に対して、個々の利用者の現在の様子を写真を撮って送ったり、家族の了解や協力の元、オンラインやメールを活用し、動画等も送る努力をして行く。	12ヶ月
2	43	排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行ってはいるが、充分とは言えない。	排泄パターンシートを活用し、トイレ誘導のタイミングをより精査することで、気持ちよくトイレで排泄できる場面が増える工夫をする。	排泄パターンシートを活用し、失敗の少ない人に紙パンツでは無く、布パンツ+うすいパットを使用し、様子を見ながら排泄の自立を促して行く。	12ヶ月
3	35	年2回、火災訓練、水害訓練を実施している。近隣に小矢部川があり、水害時は、本社ビルに利用者全員が避難する事になっているが、3日分の非常食が愛寿乃里のみに備蓄されており、避難先の本社ビルには備蓄が無い。	職員が少ない夜間の時間帯に、本社ビル1階から2階へ上がる方法を考える。本社ビルに非常食を備蓄する等の体制作りを行う。	日中に夜間を想定し、限られた勤務者と緊急呼び出し職員で本社ビルへ移動し、1階から2階へ上がる方法を実施したり、愛寿乃里のみならず、本社ビルにも非常食を備蓄し、体制づくりを行う。	12ヶ月
4	6	現在身体拘束対象者はおられないが玄関の施錠を含めて、内部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。コロナ禍で外部研修が少なく新しい情報が入りにくい。	2か月に1回「身体拘束適正化委員会」を開催している。年2回施設内研修会を実施し、合わせて外部研修会にも出席し、新しい情報を取り入れる。	コロナ禍で外部研修会が少なく、新しい情報が入りにくいのが、オンライン研修等を取り入れ、マンネリ化しないよう努めていく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。